

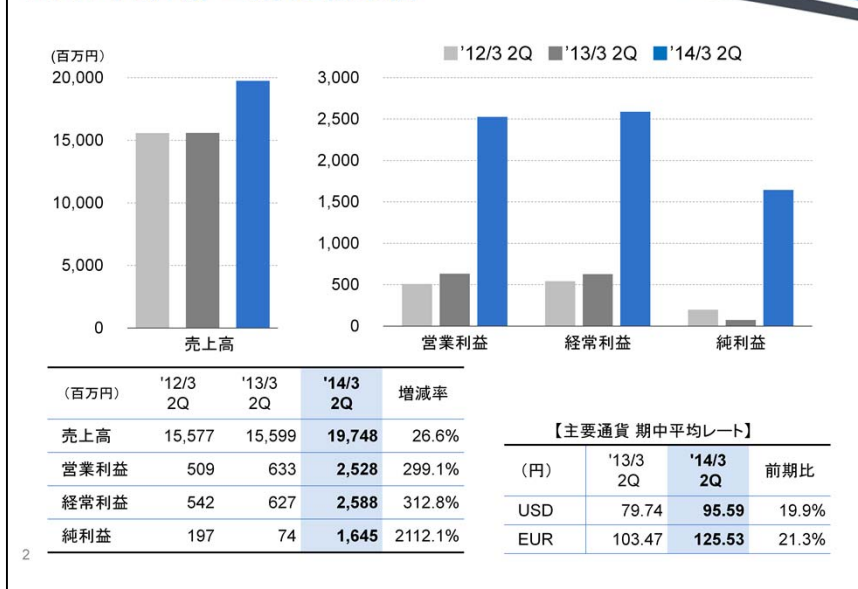
2014年3月期(第33期) 中間決算説明会

ローランド デイジー 株式会社
2013年11月13日

Imagine.  Roland®

2014年3月期(33期)第2四半期累計の決算報告をさせていただきます。

2014年3月期 上期 連結業績



当上期の経営環境は、米国では緩やかな景気の回復基調が持続したものの、欧州では南欧を中心とした長引く景気停滞の影響により、厳しい経済情勢が続きました。また、アジアでは中国などの成長率鈍化が鮮明となりました。日本においては円安や株価上昇をうけ景気回復への期待感が高まりつつあります。

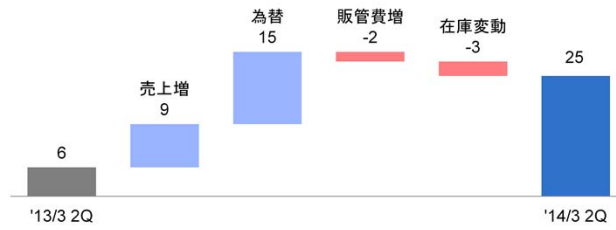
こうした中、売上高は、円安効果や前期から今期に発売したプリンターの新製品が好調だったことなどにより、前年同期を上回りました。

費用面では、販売費および一般管理費は前年同期に比べ増加したものの、円安にともなう海外子会社の仕入れコストの低減効果などにより原価率が大幅に改善いたしました。この結果、営業利益、経常利益および四半期純利益いずれも大幅な増益となりました。

なお、円安により、前年同期と比べ、売上高はプラス24億円の押し上げ効果がありました。

2014年3月期 上期 連結営業利益 増減要因（前年同期比）

単位：億円



期中平均レート(1-6月、単位：円)

	'13/3 2Q	'14/3 2Q	前期比
USD	79.74	95.59	19.9%
EUR	103.47	125.53	21.3%
GBP	125.73	147.41	17.2%
DKK	13.92	16.83	20.9%
AUD	82.36	96.92	17.7%

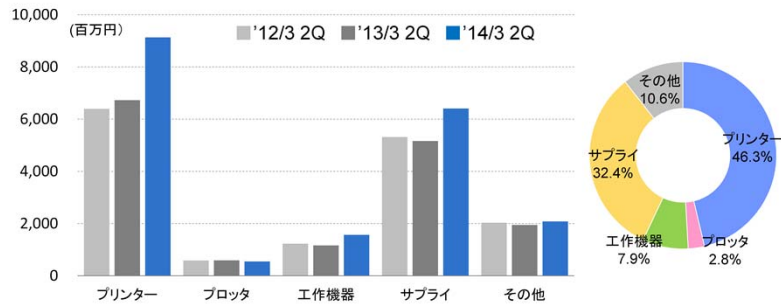
	'13/3 2Q	'14/3 2Q	前期比
THB	2.56	3.21	25.4%
CNY	-	15.47	-
KRW	-	0.0867	-
BRL	-	46.10	-

3

※連結子会社決算期は1-12月

連結営業利益の増減要因ですが、
前年同期と比較すると、実質的な売上増収や為替円安の効果で
販管費と在庫変動費用の増加を吸収して、合計では、19億円の増益と
なりました。

2014年3月期 上期 連結品目別売上高



(百万円)	'13/3 2Q		'14/3 2Q		増減率	
	金額	構成比	金額	構成比	邦貨	原通貨
プリンター	6,727	43.1%	9,151	46.3%	36.0%	20.0%
プロッタ	596	3.8%	551	2.8%	△7.6%	△20.4%
工作機器	1,162	7.5%	1,554	7.9%	33.8%	19.4%
サプライ	5,164	33.1%	6,406	32.4%	24.0%	6.9%
その他	1,948	12.5%	2,083	10.6%	7.0%	△4.0%
合計	15,599	100.0%	19,748	100.0%	26.6%	11.1%

つぎに品目別売上高です。

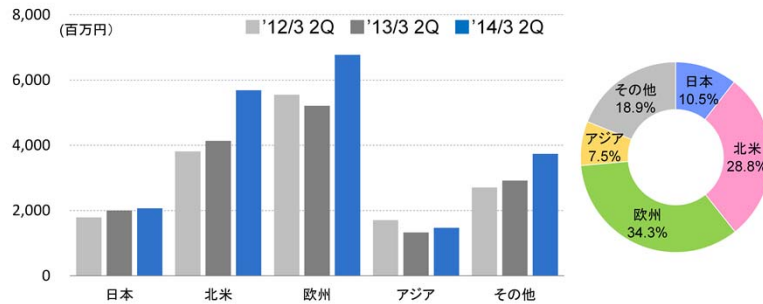
プリンターでは、主に、プロ用新製品2機種的好調によって、前期比で36%増加しました。為替影響を除いた実質的な増加率は20%でした。

表の右端にあります「原通貨」が為替影響を除いた実質的な増減率となっています。

工作機器では、デンタル加工機が欧米に加えて、中国や日本でも販売が拡大し、工作機器全体で前期比33%の増加となりました。

またサプライにおいても、北米、欧州、日本の先進国を中心に伸び、前期比24%の増加となりました。

2014年3月期 上期 連結地域別売上高



5

地域別売上高ですが、

日本では、サイン向けプリンターの新製品が買い替え需要を中心に伸びたことに加え、前期より本格的なセールスマーケティング活動を開始したデンタル加工機が伸長しました。

北米では、プリンターの新製品に加えて既存機種の上も増加したことやデンタル加工機のソリューション提案が成果をあげたことなどにより、前期比で37.5%増加いたしました。

欧州では、南欧などで景気低迷が続きましたが、新製品の販売が売上増加に貢献し、前期比30%増となりました。

アジアでは、中国でサイン用プリンターの売上が増加いたしました。また、中国、韓国およびオーストラリアの子会社による直接的営業が開始されるなど、販売網強化の成果も出始め、前期比10%増加となりました。

その他地域では、ブラジル子会社の連結効果などにより前期比28%増加いたしました。

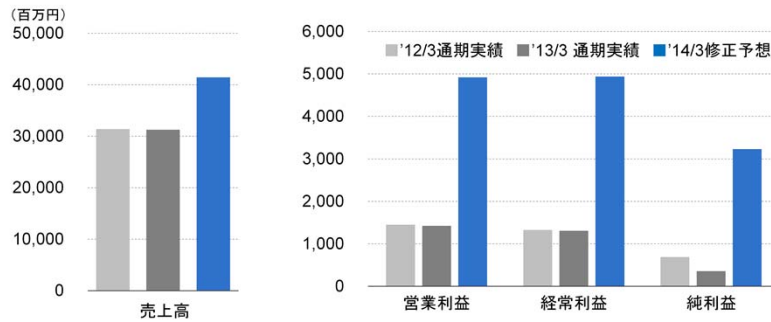
2014年3月期 通期 連結業績 予想

©Roland DG Corporation 2013

Imagine.  Roland®

次に、通期の連結業績予想についてご説明いたします。

2014年3月期 通期 連結業績予想



(百万円)	'12/3 通期	'13/3 通期	'14/3 修正予想	前期比 増減率	【主要通貨為替レート】			
売上高	31,379	31,264	41,440	32.5%	(円)	'13/3 通期	'14/3 予想	前期比
営業利益	1,449	1,423	4,920	245.5%	USD	79.82	96.00	20.3%
経常利益	1,324	1,306	4,940	278.0%	EUR	102.65	127.00	23.7%
純利益	687	356	3,230	806.1%				

第2四半期決算発表時にあわせて発表しました「業績予想の修正」でお知らせの通り、上方修正させていただきました。

通期の為替レートも見直しを行い、USドルを96円、ユーロは127円を前提として、

売上高	414億40百万円	前期比	32.5%増
営業利益	49億20百万円	〃	245.5%増
経常利益	49億40百万円	〃	278.0%増
当期純利益	32億30百万円	〃	806.1%増

と、大幅な増収増益を見込んでおります。

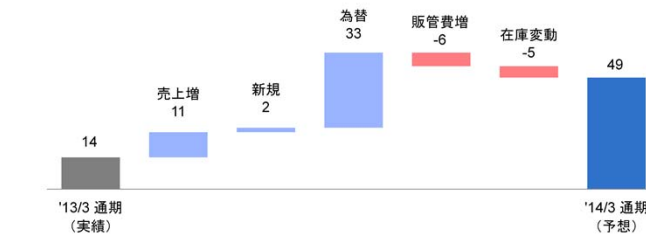
プリンターの順調な販売推移を前提として、ブラジル・中国・韓国の新規販売子会社の増収分22億円など、全体で前期比15%の実質的な売上成長を見込んでいます。

加えて、円安効果により、前期と比べて、売上高では約54億円、営業利益は約33億円の押上げ効果を想定しています。

また、この円安利益を、中期経営計画に沿った構造改革と、新たな成長分野の創出に向けた投資に配分し、着実に実行していく一年としていきたいと考えています。

2014年3月期 通期 連結営業利益 増減要因（前期比）

単位：億円



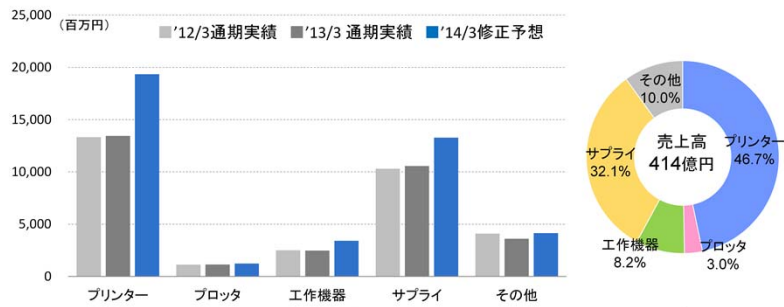
期中平均レート(1-12月、単位：円)

	'13/3 通期	'14/3 予想	前期比		'13/3 通期	'14/3 予想	前期比
USD	79.82	96.00	20.3%	THB	2.57	3.17	23.3%
EUR	102.65	127.00	23.7%	CNY	-	15.70	-
GBP	126.51	149.00	17.8%	KRW	-	0.0886	-
DKK	13.79	17.00	23.3%	BRL	-	44.00	-
AUD	82.68	94.00	13.7%				

8

連結営業利益予想の増減要因ですが、
前期と比較すると、売上増収や為替円安の効果で、
販管費と在庫変動費用の増加を吸収して、合計では35億円の増益を見込んでいます。

2014年3月期 通期 連結品目別売上高予想



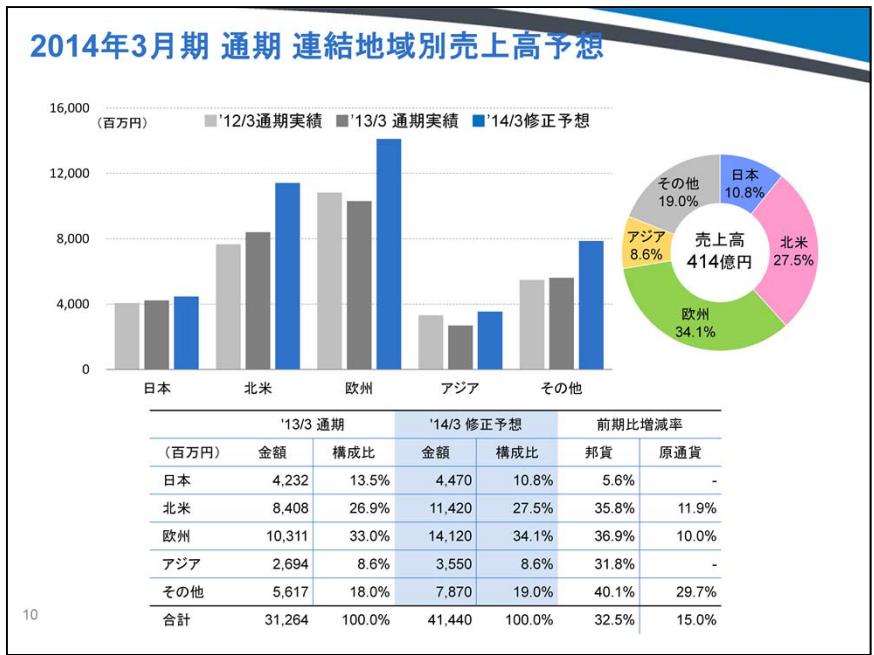
(百万円)	'13/3 通期		'14/3 修正予想		前期比増減率	
	金額	構成比	金額	構成比	邦貨	原通貨
プリンター	13,453	43.0%	19,350	46.7%	43.8%	25.5%
プロッタ	1,148	3.7%	1,240	3.0%	8.0%	△7.9%
工作機器	2,478	7.9%	3,410	8.2%	37.6%	21.7%
サプライ	10,570	33.8%	13,280	32.1%	25.6%	7.0%
その他	3,613	11.6%	4,150	10.0%	14.8%	2.2%
合計	31,264	100.0%	41,440	100.0%	32.5%	15.0%

通期の品目別売上高予想ですが、

プリンターは、上期の牽引役となった新製品に加えて、10月にスタンダードの主力機種をモデルチェンジしました。これら新製品効果を主な要因として増収を見込んでいます。

工作機器では、順調に伸長しているデンタル加工機にエントリーモデルを追加し、ラインアップを強化したことや、切削加工機や彫刻機なども堅調に推移する見込みであり、増収を予想しています。

サプライは、プリンターの伸長と同様に、増収を予想しています。



地域別売上高予想ですが、すべての地域で増収を予想しております。

北米では、プリンターの新製品が売上に貢献し、引き続き好調を持続する見込みです。

欧州では、南欧地域で不透明な経済環境が続くと思われませんが、ドイツやロシアなど北部地域での底堅い販売を見込むとともに、円安効果もあり、大幅な増収を予想しています。

アジアでは、中国、韓国の新規販売子会社の売り上げが寄与し、その他の地域では、当期より新たに連結したブラジル販売子会社に加えて中南米なども増加する見通しです。

株主還元

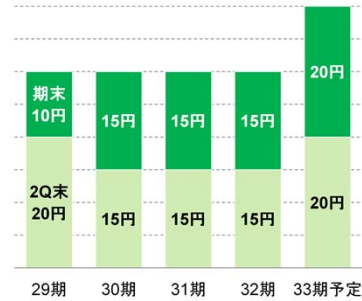
配当方針

2014年3月期より、安定配当に加え
連結利益の配当性向 20% を目標

1株配当金

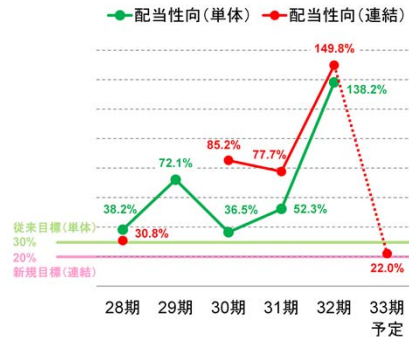
2014年3月期(33期) 40円を予定

1株配当金



11

配当性向(緑:単体、赤:連結)



株主還元についてです。

配当に関する基本方針につきましては、前期に連結子会社の完全子会社化を行ったことを踏まえ、

グローバル経営の観点から連結利益をベースとし、配当性向20%を念頭に、安定した配当を継続的に実施することを目標としております。

2014年3月期 第2四半期の配当金につきましては、期初の予定どおり20円、期末の配当金20円とあわせ、年間では40円とさせていただきます。

なお、年間での連結利益に対する配当性向は22%となります。

カラー事業

©Roland DG Corporation 2013

Imagine.  Roland®

続いて、事業の状況についてご説明いたします。
まずは、カラー事業です。

新たな FLAGSHIP モデル

SOLJET PRO4

2012年9月発売



XR-640

プロ用 プリント&カット機 **Print**

欧州展示会Viscomで
「Best of 2012 AWARD」受賞

WINNER
viscom
BEST of 2012 AWARD

新型プリントヘッド **New Head**

新型ECO-SOLインク **ECO-SOL MAX 2**

2013年4月発売



XF-640

プロ用 プリント専用機

ヘッドのスタガ配列で
生産性を大幅に向上

HEAD

新型プリントヘッド **New Head**

新型ECO-SOLインク **ECO-SOL MAX 2**

カラー事業では、主にサイン市場に向けて、業務用大型インクジェットプリンターを展開しています。

スライドの2台の製品は、昨年から今年にかけてリリースした、プロ用の「プリント&カット機:XR-640」、「プリント専用機:XF-640」です。

最新のプリントヘッドを搭載し、画質や表現力、生産性など、プロユーザーのすべてのニーズを満たす、Roland DGの「フラッグシップモデル」として発売いたしました。

リーマンショック以降の経済不安の中で、高額機種の販売は低迷し、スタンダード機の付加価値を上げて収益を維持してまいりましたが、技術革新した2つの新製品が、景気の回復とともに印刷量の増えるユーザーの買い替え需要を促進し、欧米を中心に大きく売上を伸ばしました。

スタンダードモデル刷新

VersaCAMM
VS-640i / VS-540i / VS-300i

2013年10月発売

スタンダード プリント&カット機 **Print 2-CUT**

新インク ECO-SOL MAX2を採用
ライトグレー、ホワイト、メタリックインクで
多彩な表現を実現

新型プリントヘッド **ECO-SOL MAX2**

新型ECO-SOLインク **New Head**

14
©Roland DG Corporation 2013

Imagine. **Roland**

また、10月には、スタンダードモデルの主力機種「VersaCAMM VSシリーズ」をモデルチェンジしました。

最新ヘッドで画質や生産性を上げるとともに、新型インクの発色性、グレー、メタリック、ホワイトインクによって、ますます印刷の表現力を高めました。

一番のボリュームゾーンの機種として、多くのユーザーの付加価値向上をトータルの力で支援します。

新興国サイン向け モデル

2012年4月発売

VersaArt



新興国のニーズを取り込み、
ローカルのインクやソフトウェアに
対応した低価格モデル

RA-640

スタンダード 水性プリント専用機

15

©Roland DG Corporation 2013

Imagine  Roland®

また、スタンダードモデルのプリント専用機「RA-640」は、中国市場に合ったインクソリューションを開発したことで需要を獲得し、飛躍的に売上を伸ばしています。

中国では、昨年設立した販売子会社がユーザーサポートを推進し、現地代理店とともにきめ細かくマーケットに対応することで、ブランド力強化と顧客の付加価値創出を進めています。

新ラインナップ

	多用途 プリント&カット	高生産 プリント専用
プロ機	 XR-640	 XF-640
スタンダード機	 VSiシリーズ	 RA-640 (水性) RE-640 (低溶剤)

16

©Roland DG Corporation 2013

Imagine.  Roland®

以上のおり、前期から当期にかけてサイン市場向け製品のラインナップを一新しました。

新たなフラッグシップモデルをブランドの象徴として、市場への一層の付加価値提供を目指し、充実のラインナップでグローバルにシェアアップを図ってまいります。

UVプリンター 新製品

従来機		新機種(2013年10月発売)
LEF-12		LEF-20
		
8個 	印刷エリア スマホケース換算	17個 
0.61m ² /h 	印刷スピード CMYK印刷スピード	1.37m ² /h 

フラットベッドUVプリンター“LEFシリーズ”が生産性を格段に上げ、オリジナルプリント分野を拡大

17
©Roland DG Corporation 2013

Imagine 

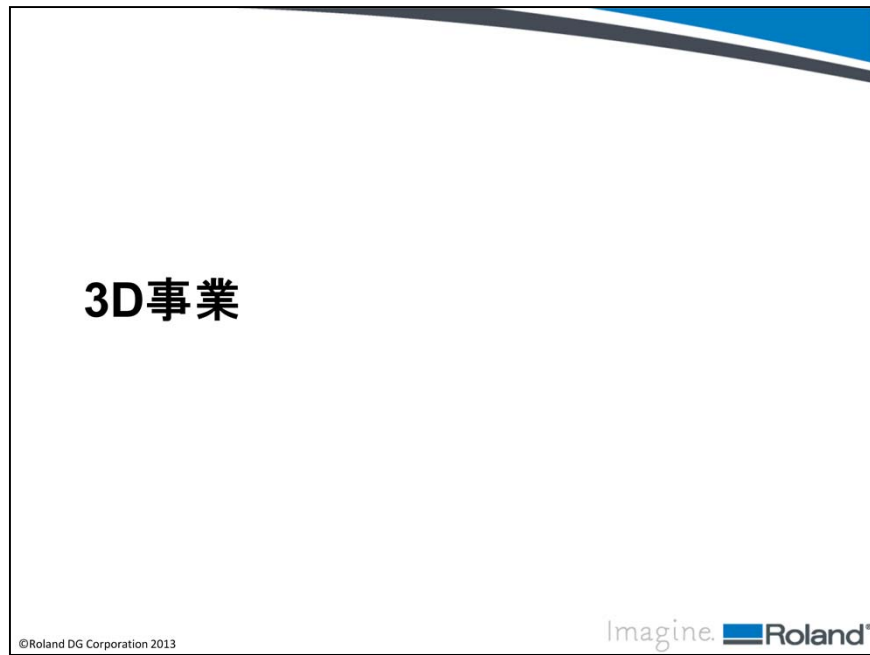
そして、デジタルプリンティングの分野では、UVプリンターLEF-12の上位機種LEF-20を発売しました。

印刷エリアが従来機種種の2倍となり、一度に印刷できるスマホケースの数が8個から、LEF-20では17個になりました。

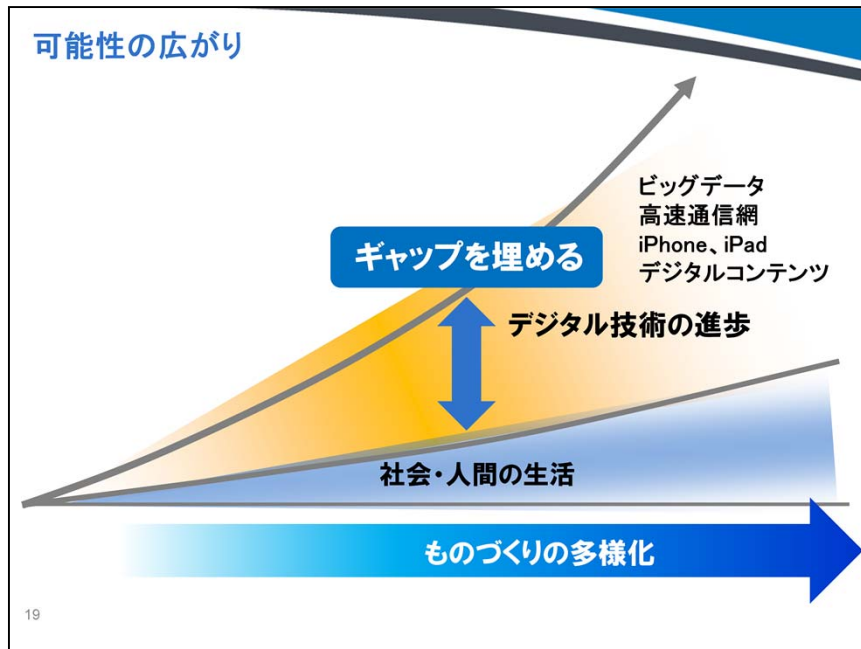
さらに、最新型UVランプの採用などにより、印刷スピードを2倍に高めることで、生産性が飛躍的に高まりました。

今後、自分だけのデザインや、世界に一つだけのものを求めるニーズは、ますます高まってくると思われます。

引き続き、UVプリンターで、オンデマンドのデジタルプリント分野を広げてまいります。



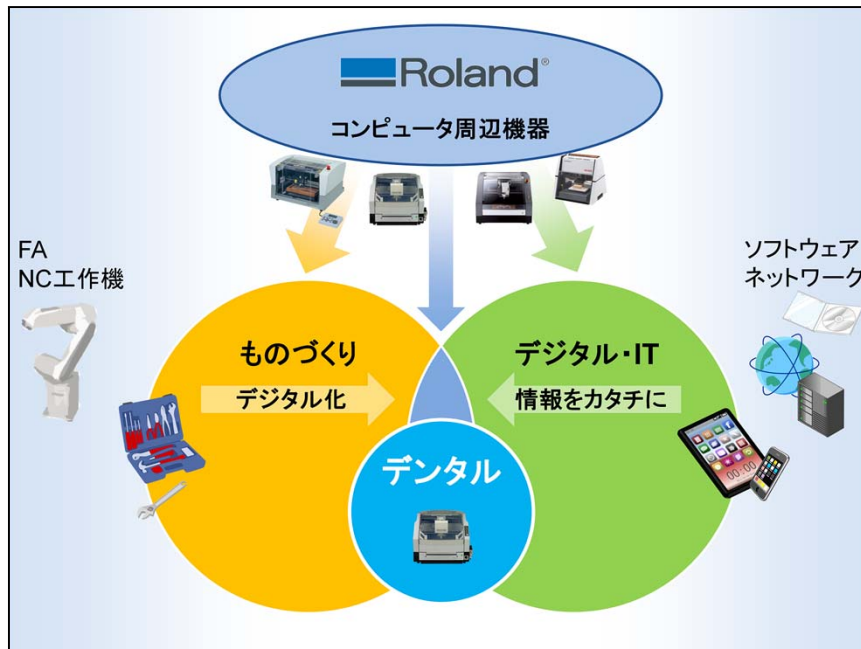
続きまして、3D事業についてご説明します。



当社は、パーソナルコンピュータが発売された1981年に、「コンピュータ周辺機器」を開発・製造・販売する会社として誕生しました。

当時はコンピュータが急速に小型化、民主化を遂げた時代です。私たちは、パソコンの発展とそれに伴うデジタル技術の進化が、「ものづくり」のあり方を変えるだろうと考えました。

そして、急速なデジタル化は、バーチャルな世界を生み出し、現実のものづくりの世界との間のギャップを拡大してしまう、という認識のもと、デジタル技術を活用したツールを提供することで業務プロセスを改善するとともに、拡大するデジタル・ITの世界とものづくりの世界の間のギャップを埋めることを使命とし、市場の開拓に取り組んでまいりました。



デジタル技術を活用したものづくりが進展するなか、当社は、机の上でアイデアをカタチにする「デスクトップ・ファブリケーション」のコンセプトの下、さまざまな市場に向けてデジタル機器を提供してまいりました。

その中で近年、歯科医療の分野でビジネスが拡大しようとしています。

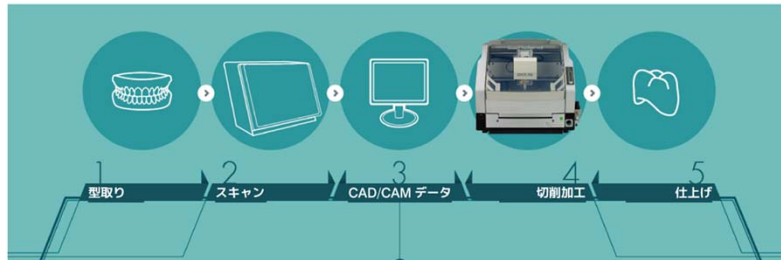
義歯製作プロセスの変化



義歯用素材 ジルコニア

- 金歯や銀歯などに比べ人体親和性と審美性が高い
- 成形方法は鋳造ではなく、切削方式のみ

歯型の情報をデータ化⇒デジタル加工で成形



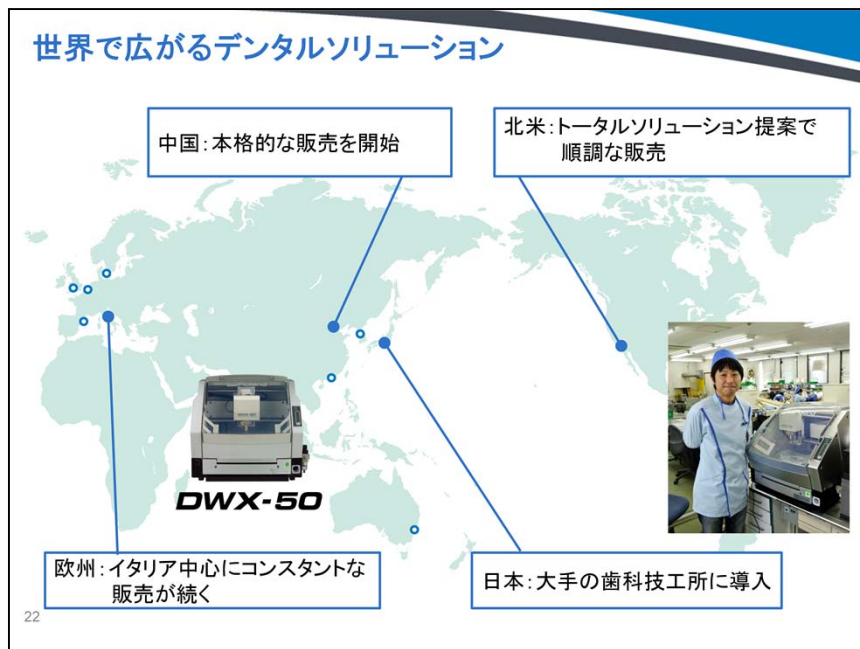
21

当社が歯科医療の分野に挑戦することとなったきっかけは、歯科技工士の業務プロセスのデジタル化が進んだことに加え、入れ歯などの義歯材料において、新たにジルコニアという素材が登場したことが挙げられます。

ジルコニアという素材は削ることではしか成形できないため、鋳造から切削加工へと製作プロセスが変化しました。そこで歯科医療分野に特化した3DスキャナーやCAD/CAMが登場し、システム化された大型加工機が登場しました。

しかしながら、システム化された大型加工機は導入コストが高く、大規模な歯科技工所に導入される一方で、中小規模の技工所にとってはハードルが高いものでした。

そこで当社は、独自の「デスクトップ・ファブリケーション」のコンセプトの下、これまで培ってきた3次元切削加工機のノウハウを活かし、中小規模の技工所向けに低価格でかつ、オープンシステムのデンタル切削加工機を開発し、2011年に発売しました。



当社が販売するデンタル切削加工機DWXシリーズは、デスクトップサイズで扱いやすいことが評価され、市場に受け入れられています。

北米、欧州では、初めてデジタルの義歯加工をはじめめる歯科技工所に向けて、イタリアやアメリカの子会社を中心に実際の歯科医院や技工所をイメージしたラボを開設し、デジタル加工フローの教育やトレーニングをおこない、顧客サポートの強化につとめた結果、販売は好調に推移しています。

中国では昨年10月に設立した販売子会社が、本格的にデンタル加工機の販売を開始しました。

日本でも大手の技工所に導入されるなど、認知度が向上するとともに販売の拡大につながっています。

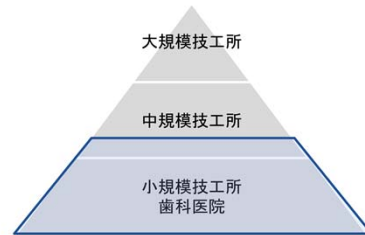
小規模技工所に向け新製品投入

2013年10月発売

中小規模の技工所や
歯科医院への導入を図る



DWX-4



コンパクトサイズ
導入しやすい価格帯
4軸加工で上位機種に迫る加工品質を実現

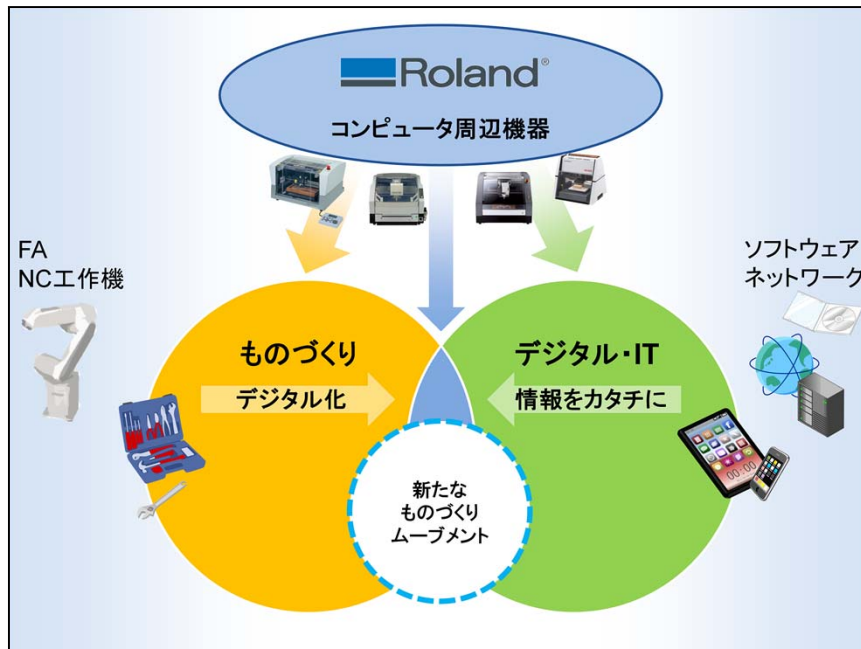
23

デンタル市場への参入から約2年が経過して、中規模の技工所を中心に導入が進んでいることがわかってきました。

そしてデジタル加工機が未導入の小規模技工所では、さらにコンパクトで低価格帯の製品が求められていることがわかりました。

そこで、当社はそれらのニーズに応えるべく、従来機種よりさらにコンパクトで導入しやすい価格を実現し、上位機種と同等の加工品質を備えた製品の開発を進め、先月10月にDWXシリーズの新たなラインナップとして、DWX-4を発売しました。

今後は、職人の手作業が主流の歯科技工の現場に加えて、歯科医院(クリニック)への導入も視野に入れて義歯製作のデジタル化提案を進め、デンタル事業の拡大に取り組んでまいります。



一方、デジタル技術を活用したものづくりとして、3Dプリンターなどのデジタルツールを活用して、ものづくりを行うファブラボなどの新しい動きが生まれてきています。

ファブラボとRolandDG



Imagine. **Roland**

パーソナル・ファブリケーション
個人が自由にもものづくりを楽しむ

=

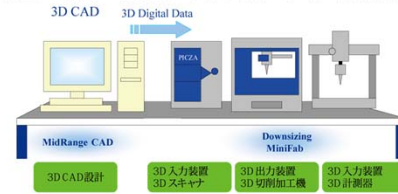
デスクトップ・ファブリケーション
誰もが簡単にデジタルものづくり

コンセプトが合致



ファブラボの様子

机上工場(デスクトップ・ファブリケーション)概念図



※2003年3月期中間決算説明会資料より

25

ファブラボとは、米国マサチューセッツ工科大学のニール・ガーシェンフェルド教授が提唱した市民工房のネットワークです。アナログ・デジタルの工作機器を使って、個人が自由にもものづくりを楽しむ「パーソナル・ファブリケーション」の場を提供しています。

ファブラボは世界50か国、250か所以上に存在し、各拠点には3Dプリンターや切削加工機などの工作機器が設置され、デジタルデータやノウハウがインターネットを介してシェアされています。

ファブラボの「パーソナル・ファブリケーション」で、ものづくりの可能性を広げていこうという考え方は、デスクトップで簡単操作、導入しやすい価格帯のコンセプトのもと、専門知識が無くても手軽にイメージをカタチにする「デスクトップ・ファブリケーション」を提唱してきた当社と共通しています。

2002年のファブラボ創設以来、当社の小型3次元切削加工MDX-20やカッティングマシンGX-24が、ファブラボの推奨機器として世界各地のファブラボに設置され、市民工房の活動を支えてきました。

世界ファブラボ代表者会議 (FAB9) へ協賛

“デジタル加工機メーカー”としてのプレゼンス向上

ファブラボメンバーとの関係構築や製品ニーズを把握



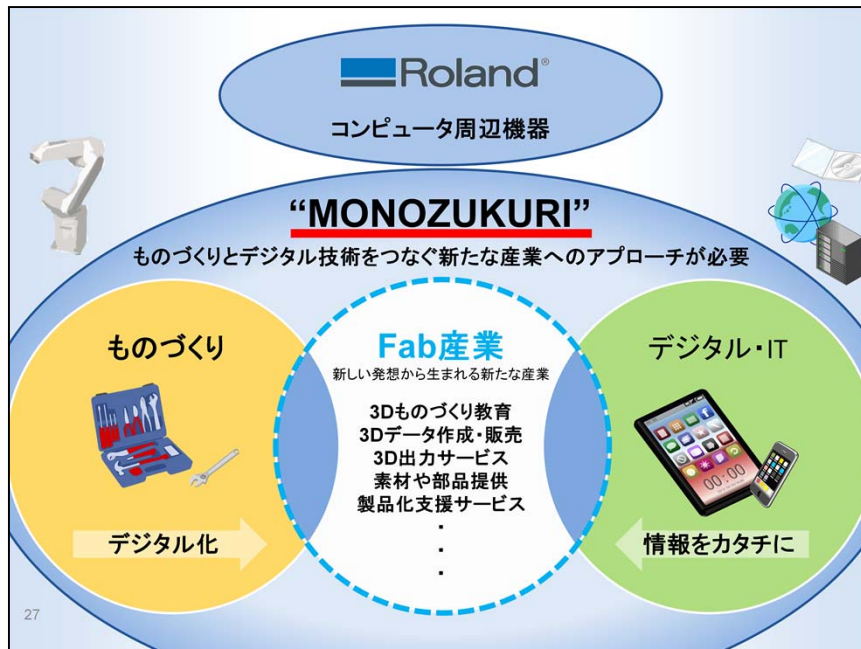
26

このような背景から、今年8月に日本で開催された「第9回 世界ファブラボ代表者会議」に、当社は筆頭スポンサーとして協賛しました。

開催期間中には、3D担当役員が「デスクトップ・ファブリケーション」と題した講演をおこない、当社の「デジタルものづくり」の考え方に共感いただくとともに、ものづくりを変えていくデジタルツールを開発するメーカーが日本にあるということ、ファブラボ関係者に知っていただくことができました。

また企業の製品展示コーナーでは、ファブラボに関わっている人々の視点やニーズに直接触れるため、開発部門のスタッフも参加し、今後の製品開発にヒントを得る機会となりました。

今後も、「デジタルものづくり」を広めていく共通したコンセプトのもと、ファブラボの活動を支援するとともに、ものづくりの可能性を広げるデジタルツールの開発に取り組んでまいります。



過去30年のコンピュータとデジタル技術の進展は、さまざまな産業の業務プロセスを変革してきましたが、近年、スマートフォン、タブレット端末に代表されるツールのモバイル化とデータ保存のクラウド化は、現実世界との間に新たなギャップを生じさせようとしています。

このような動きの中で、個人向けの3Dプリンターが続々と登場し、出力データの作成を支援する3DCAD/CGが普及し、個人向けの3Dスキャナーも登場してきています。

さらには、データから形状を造り出す出力代行サービスの登場、ファブラボなどデジタル工房の増加、ネット上のコミュニティを通じたものづくりの情報・知識・知恵の共有などといった動きもあり、個人でもデジタルものづくりを楽しめる環境が着実に整備されつつあります。

こうした「新たなものづくりムーブメント」から、今後もさまざまなサービスが生まれることが予想されます。

当社は、この領域を「Fab産業」と呼び、その動向を常に意識しながら、企業・個人を問わず、誰もが思いついた独創的なアイデアを、イメージ通りにカタチにするための製品・サービスを立ち上げていきたいと考えます。

そして、製造業とIT産業という2大産業が融合するこの領域で、ものづくりの精神を引き継ぎ、「創造力」で新たな時代を切り拓こうとするデジタルネイティブの才能を十二分に発揮させる、新しい価値を自ら「創る・MONOZUKURI」のためのデスクトップ・ファブリケーションのあり方を提案していきたいと考えます。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらは現時点(2013年11月13日現在)で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。従いまして、これらの業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

Imagine.  Roland®

ローランド ディー.ジエー.株式会社

28

©Roland DG Corporation 2013

Imagine.  Roland®